

弥陀ヶ原の火山活動解説資料（平成 27 年 12 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・情報センター

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。

立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

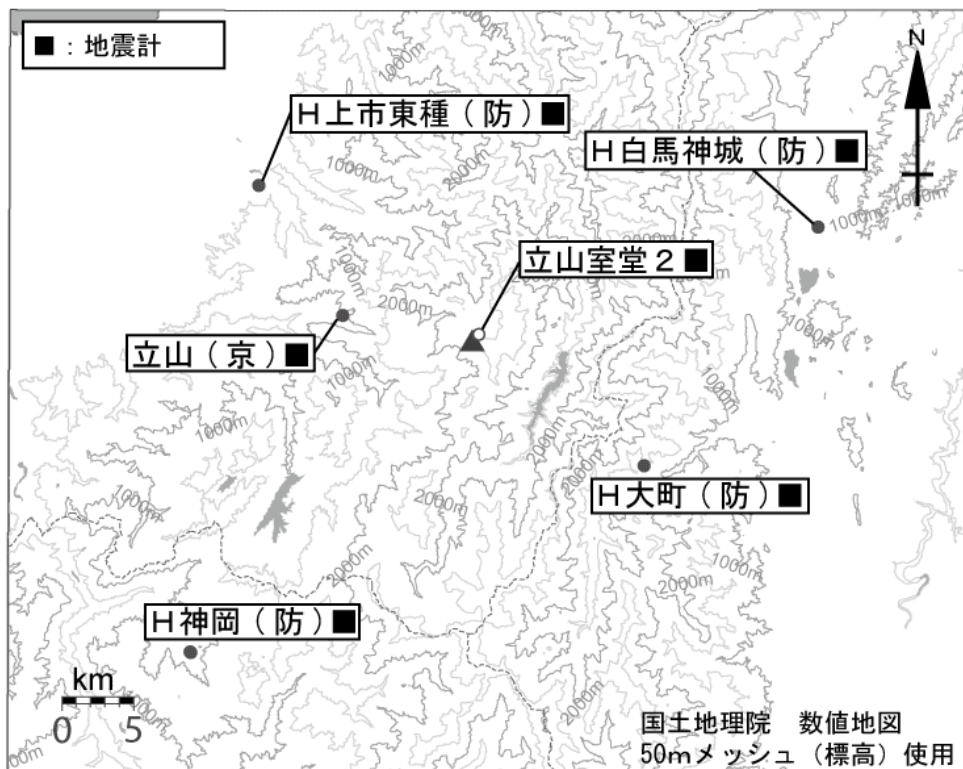
・地震や微動の発生状況（図 2）

弥陀ヶ原近傍を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過しています。火山性微動は観測されていません。

・噴気など表面現象の状況（図 3 ～ 5）

2015 年 11 月 4 日（期間外）に北陸地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、前回（2014 年 10 月 31 日）と同様に、地獄谷周辺で引き続き活発な噴気活動が認められました。赤外熱映像装置^注による観測では、地獄谷周辺などに引き続き高温域が見られ、その分布域は前回と比較して特段の変化はありませんでした。

注）赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器で、熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の温度より低く測定される場合があります。



小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(防)：防災科学技術研究所、(京)：京都大学防災研究所

図 1 弥陀ヶ原 観測点配置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧できます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 1 月分）は平成 28 年 2 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

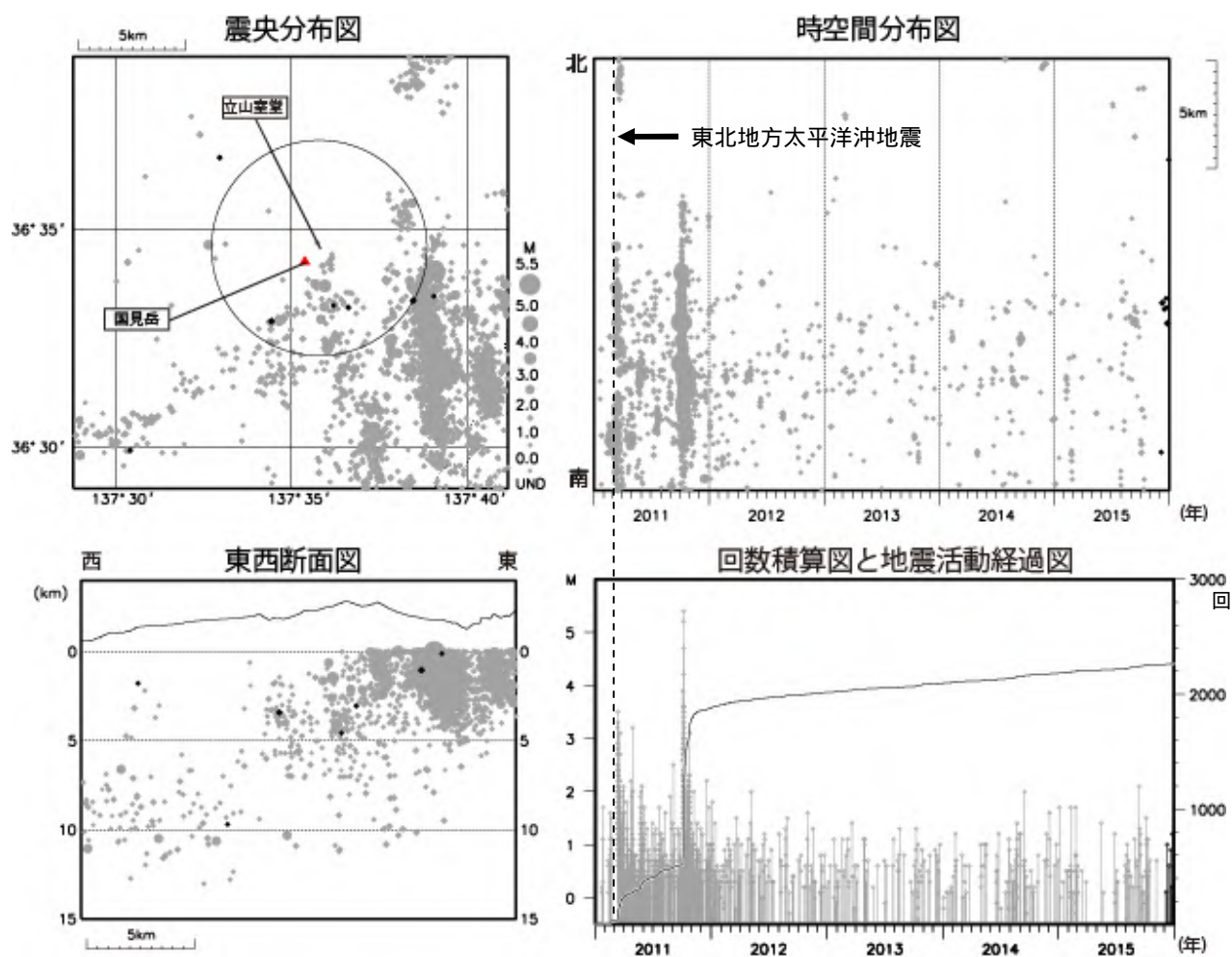


図 2 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年 1 月 1 日～2015 年 12 月 31 日）

- ：2011 年 1 月 1 日～2015 年 11 月 30 日 ●：2015 年 12 月 1 日～12 月 31 日
- ・ 震央分布図内の円は、立山室堂に設置した地震計（立山室堂 2）で地震回数を計数している S-P 時間 1 秒以内となるおよその範囲を示します。
- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- ・ 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調に経過しています。



図3 弥陀ヶ原 撮影位置図
図中の矢印は図4～5の概ねの撮影位置と撮影方向を示します。

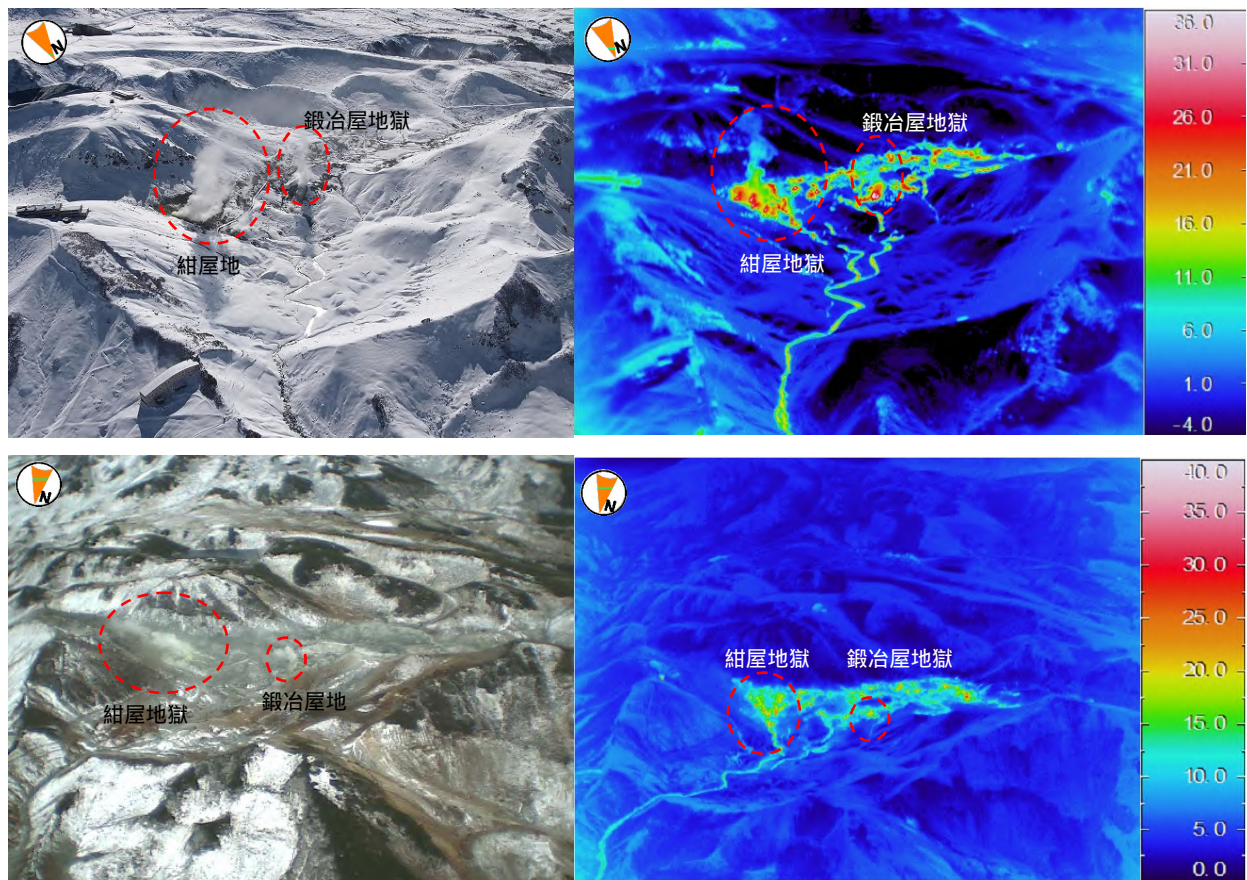


図4 弥陀ヶ原 地獄谷付近の状況（北側から）
上段：2015年11月4日、下段：2014年10月31日撮影

- ・紺屋地獄及び鍛冶屋地獄周辺では、活発な噴気活動が見られましたが、地熱域の分布は、前回と比較して特段の変化は認められませんでした。

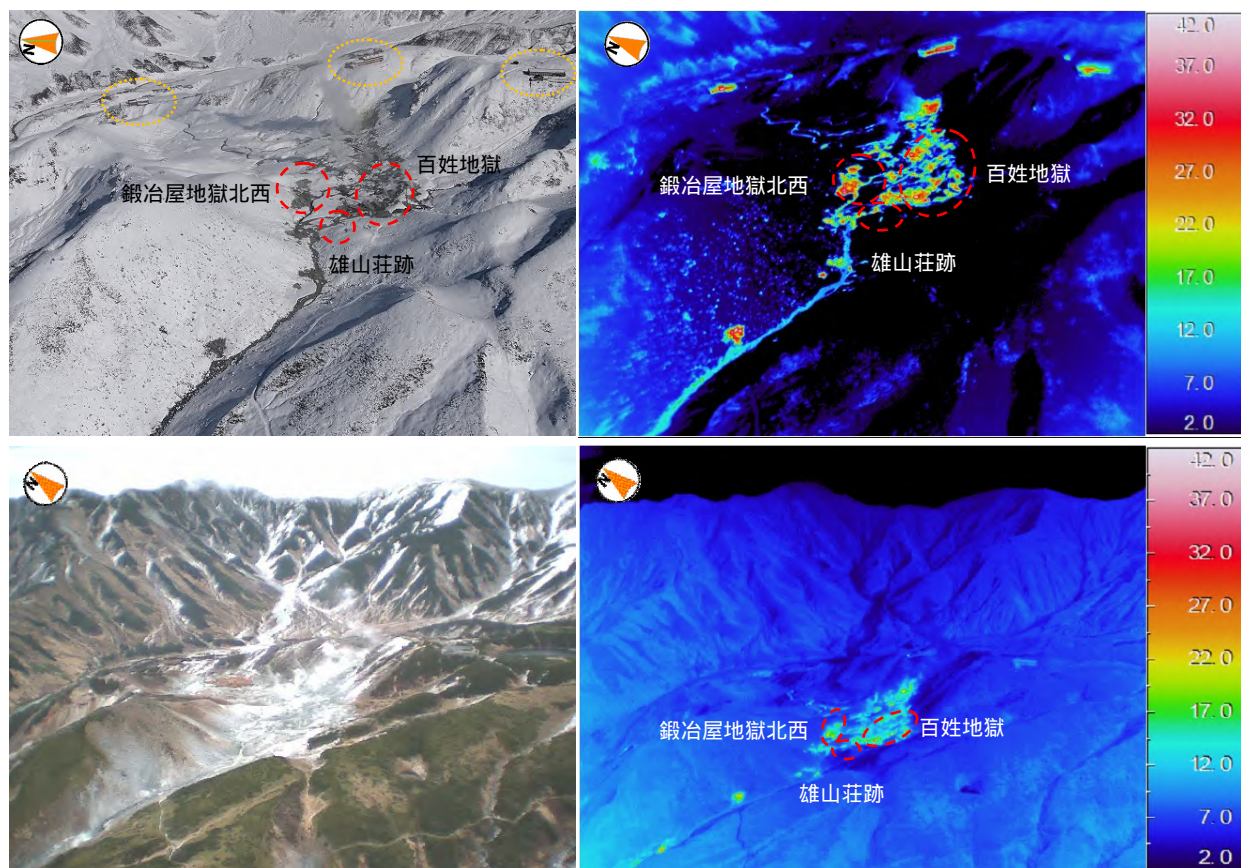


図5 弥陀ヶ原 地獄谷付近の状況（西側から）
上段：2015 年 11 月 4 日、下段：2014 年 10 月 31 日撮影

- ・今回の観測では、百姓地獄、鍛冶屋地獄北西では、弱い噴気が確認できました。地熱域の分布は、前回と比較して特段の変化は認められませんでした。